プレスリリース

2026 年 11 月 11 日
公益財団法人 日本生産性本部

日本の労働生産性の動向 2026
2025 年度の時間当たり名目労働生産性は 6,081 円、1994 年度以降で最も高い水準に
実質ベースの上昇率は前年度比＋1.4%

調査研究や提言、実践活動により生産性向上をめざす（公財）日本生産性本部（東京都千代田区、理事長：前田和敬）は、11 月 11 日、「日本の労働生産性の動向 2026」を発表しました。

人口減少が本格的に進み、様々な業種で人手不足が深刻化する中で、生成 AI をはじめとするデジタル技術を活用した生産性向上が喫緊の課題となっています。また、物価上昇を上回る賃上げを実現し、持続可能な経済社会を構築するうえでも、生産性向上の必要性や意義はますます高まっています。当本部では、経済成長や働く人の豊かさを実現する政策立案ならびに施策の展開に役立てるため、日本の労働生産性の現状を定点観測・分析して公表しています。

2025 年度の日本の時間当たりの名目労働生産性は、6,081 円で、現行基準の GDP をもとに計算できる 1994 年度以降でみると最も高い水準になっています。実質ベースの労働生産性上昇率は前年度比＋1.4%でした。四半期ベースでみると、2025 年 10～12 月期から 2026 年 4～6 月期まで 3 四半期連続でプラスが続いています。

1. 2025 年度の日本の時間当たり名目労働生産性は 6,081 円。
実質（時間当たり）労働生産性上昇率は前年度比＋1.4%で、2 年連続のプラス。

・2025 年度の日本の時間当たり名目労働生産性（就業 1 時間当たり付加価値額）は 6,081 円。現行基準の GDP をもとに計算できる 1994 年度以降で最も高く、初めて 6,000 円を上回った。物価上昇を織り込んだ時間当たり実質労働生産性上昇率（前年度比＋1.4%）も、2 年連続でプラスとなっている。

・四半期ベースでみると、2025 年 10～12 月期から 2026 年 4～6 月期まで 3 四半期連続でプラスとなっている。ただし、2026 年に入ってからの実質労働生産性上昇率は前期比で 1%を下回る水準で推移しており、ほぼ横ばいとなっている。

2. 2025 年度の日本の一人当たり名目労働生産性（就業者一人当たり付加価値額）は 985 万円。
実質（一人当たり）労働生産性上昇率は前年度比＋0.4%。

・2025 年度の日本の一人当たり名目労働生産性は 985 万円。

・実質ベースの一人当たり労働生産性上昇率は前年度比＋0.4%（2025 年度）。2 年連続でプラスとなったが、0.5%を下回る上昇幅が続いている。

≪内容≫生産性研究センター　木内　TEL：03-3511-4016、e-mail：research@jpc-net.jp
≪取材≫統括本部（広報）　伊藤、鈴木（彩）　TEL：03-5511-2029、e-mail：jpcpr@jpc-net.jp

報告書の本文は、日本生産性本部・生産性研究センターのホームページ（https://www.jpc-net.jp/annual_trend/）　よりダウンロードしてご覧いただけます。